

高嶺の超
過は午前
に限り

兩山脈中
の高嶺

即ちパミール高原の産馬を乗用としたり。幕營地は水草、薪を得るの便宜且つ防風に適する處なるが故に従來一定し在り。各嶺上は晴天と雖も斷えず強風吹き。午後殊に甚しとす。最も危険なるは、嶺上天候の劇變にして刹那濃霧谷間に湧き密雲四面を封し、天地暗々咫尺を辨せず、呼吸塞逼人馬爲めに斃るゝこと有り。是に於てか各嶺を通過せんとするには、前日嶺の中腹なる堆石方形の圍郭を設け在る處に幕營し曉起能く天候を見定め、早朝に通過するを常とせり。若し少しにても天候不良と見ば、決して發程すべからず。又如何に晴天なればとて、午後には通過せざるを要す。是れ暑中は氷面幾分の融解を醸し、滑走するの虞あり。加之強風吹き、雲霧生じ易く動もすれば不測の難に陥るが爲めなり。

今崑崙、ヒマラヤ兩山脈中、超過せざるべからざる各嶺を、北方より順次に列記すれば、概ね左の如し。

アッコラム嶺

海拔九千二百二十尺

エンギ嶺

喀喇崑崙嶺 同 一萬八千五百五十尺